

日本在宅 医学 学会 雑誌

Vol.8 No.2

The Japanese Academy of Home Care Physicians

●巻頭言

在宅医学の目指すもの—人生を全うするための学問と実践—

佐藤 智

●第9回日本在宅医学会大会のお知らせ

●特集1 小児在宅医療

1.小児在宅医療総論

前田 浩利

2.小児在宅医療における訪問看護—あおぞら診療所新松戸における小児在宅医療の取り組み—

佐々木佐代子

3.小児在宅医療における病診連携と退院調整

羽鳥 文麿・松岡 真里

4.小児在宅医療に関係する社会資源の活用

吉野 浩之

5.小児の在宅医療における家族の援助

前田 浩利

6.小児在宅医療における医療的管理の実際

吉野 浩之

7.小児在宅医療における緩和ケア

前田 浩利

●特集2 在宅療養支援診療所

在宅療養支援診療所を考える—一般診療所の立場から—

鈴木 央

零細個人医院にとっての在宅療養支援診療所

藤田 和丸

在宅療養支援診療所の課題とこれから

太田 秀樹

「在宅療養支援診療所」の創設に伴う今後の在宅医療の展望

中野 一司

在宅療養支援診療所の現状と課題

荒井 康之

在宅療養支援診療所—在宅医療の理念—

新田 國夫

在宅ホスピスにおける「在宅療養支援診療所」の役割を考える

二ノ坂保喜

●症例報告

大学病院が支えた「自宅で最期を迎えるという選択」

鶴岡 優子・鶴岡 浩樹・梶井 英治

●原著

Appraisal of Twenty-Five Years' Experience in Home Care of Patients

Akira Sato, Toshitaka Ishiko, Takeshi Yoshida

日本在宅医学会認定専門医制度規程…………… 89

投稿承諾書…………… 98

投稿規定…………… 97

編集後記…………… 101

日本在宅医学会

● 巻頭言

在宅医学の目指すもの
－ 人生を全うするための学問と実践 －



佐藤 智 日本在宅医学会会長

私どもの日本在宅医学会が発足して、この数年間に、日本の在宅医療は急速に発展した。それに従事する医師、医療関係者の数は増えて、「家においても医療がうけられる」という安心感が国民の中に浸透しつつある。

これは、喜ばしい現象である。そして、今や量だけでなく質の充実が求められている。

「24時間、夜間でも診療を受け付けます」と標榜している診療所は増えてきたが、ある患者さんが真夜中に電話をすると留守番電話で「本日の担当は〇〇先生です。そちらにお電話下さい」と言われたという話を聞いた。これは特殊な場合であろうが、医療とは「顔と顔が見える信頼関係が基盤」である。商店に「医療」という商品を並べ、通行人が見定めて、適当に買ってゆく、のとは根本的に異なる。

在宅医療を実践すること、家庭医となることは、やり甲斐があると共に多くの困難を背負うことになる。私も内科医としての約50年の中で家庭医を35年余り行ってきたが、臨床医としての「楽しさ」と共に、幾つかの限界を感じたことがある。

第1には、医療の流れから遅れるのではないかと、という焦りである。第2には、経済的にやってゆけるのか、という心配である。第3には後継者がいるのか、という不安であった。

幸いに、今は全くその不安はない。今や「在宅医療」は新しい「流れ」になり、厚生労働省も率先して進め初めている。健康保険の面でも「在宅末期ケア」に力が注がれ、経済的に誘導がかかっている。後継者の面でも、この学会に若い会員が入会され年々盛んになっている。

現在東京、関西を中心に在宅医療を現場で実践している医師たちの勉強会が毎月開かれており、全国規模で「第2回在宅医療フォーラム」も開かれ、在宅医療の展開は明らかに進みつつある。

願わくば、この流れの根底に「学問に根差す歩み」があることを、そして、それを「在宅医学会」が、常に支えていることを心から願うものである。